

「共犯者たちの空」

—2 稿—

2026/3/18
雨森 れに

〈人物表〉

山本 真白 やまもと ましろ

(17)

高校2年生。車椅子

藤原 晴喜 ふじわら はるき

(17)

高校2年生。不良

幸田 利光 こうだ としみち

(44)

高校教諭。科学部顧問

1. 学校・外観(夕)

一般的な市立高校。

夕暮れの始まった空に飛行機雲が棚引いている。

2. 学校・化学準備室・室内(夕)

化学準備室。ホルマリン漬けや薬剤、様々な器具が保管されている。

車椅子の山本真白(17)、顧問・幸田利光(44)に説明中。手にあるレジユメには「日本学生科学賞」の文字。

真白 「これでJSSA狙いたいんです。先生が見たことないくらい打ち上げます！」

幸田 「いや、許可できないな。何かあった時とか。山本、すぐ逃げられないでしょ」

幸田、真白の足を見る。

真白、手に力がこもる。

真白 「大丈夫です！ 友達と一緒にやるので！」

幸田 「そしたらその子の責任になるだろ。実験っていうのは迷惑かけちゃ駄目なんだよ」

幸田、車椅子を強引に押し始める。

真白 「えっえっちよっと！」

幸田 「もう下校時刻過ぎてるぞ。昇降口まで送ってあげるから、大人しくしなさい」

真白、不満そうな顔をするが抵抗しない。

窓のカーテンが強くひるがえる。

3. 学校・化学準備室・ベランダ(夕)

藤原晴喜(17)、寝転んでいる。

室内から飛び出たカーテンで邪魔されているが、空を眺めている。

ゆらりと立ち上がり、室内へ。

薬剤の棚からエタノールを探し出す。

4. 学校・昇降口(夕)

誰もおらず静か。

幸田 「気を付けて帰れよ」

真白 「……ありがとうございます」

幸田、去る。

真白、車輪に手をかける。

晴喜の声「真白さあ」

真白、振り返る。

晴喜、エタノールの瓶を振る。

晴喜 「未来の科学者様に献上品っす」

真白 「マジ？」

晴喜 「さっきの間こえてた。すげー飛ぶんだろ？俺もやる」

真白、嬉しそうな笑顔。

真白 「やっちゃいますか」

晴喜 「明日の昼休みとか、どうよ」

真白、親指を立てる。

5. 学校・中庭(昼)

昼休みの中庭。

茂みから勢いよくペットボトルロケットが飛び出す。

ロケットは3階廊下の窓ガラスへ直撃。

ガラスの割れる音。

6. 学校・中庭(昼)

駆け付けた幸田、茂みを掻きわける。

簡易的な発射台が残されており、傍にエタノールの

瓶が落ちている。

あたりを見回す。真白を探すように。

晴喜、物陰で爆笑中。

幸田、晴喜の笑い声に気づき、

幸田 「お前は何かおかしいんだ！」

と、突進。

真白、幸田の前に飛び出す。

幸田、車椅子の車輪を蹴ってしまう。

ぐらつく車椅子。

真白 「わっ」

晴喜、いつの間にか近づいており、車椅子を掴む。

晴喜 「コッちゃん、周り見えてなさすぎ」

幸田、舌打ち。

幸田 「山本、お前やっただろ」

晴喜、肯定しようとする真白を制して、

晴喜 「ちげーよ。俺だよ」

真白 「は？」

晴喜 「昨日の話聞こえちゃってよ。帰り道にコイツ捕まえて、無理矢理教えてもらったわけ」

と、にやり。

幸田、訝し気。

真白 「何でそんなこと言うの！」

晴喜 「だから指導室行こうよ。ね、コッちゃん」

晴喜、幸田の肩を組み歩き出す。

そして幸田の耳元で何かを囁く。

幸田、目を見開く。

幸田 「お前……」

真白 「待って待って。先生、違うんです！」

幸田 「山本は明日話聞くから」

晴喜、真白に向かってひらひらと手を振る。

真白、眉をへの字に曲げる。

7. 学校・指導室（昼）

幸田と晴喜が向き合って座っている。

幸田、エタノールの瓶を机の上に置く。

幸田 「藤原、こんなんじゃそろそろ退学だぞ」

晴喜 「窃盗罪で？」

幸田 「生活態度な。とりあえずホントのこと言え？ 犯人は山本だろ？」

指導室の外、真白の影が過ぎる。

同時に扉の前で車輪のブレーキ音。

晴喜、表情を硬くする。

幸田 「おい。聞いてんのか」

8. 学校・指導室前・廊下（昼）

真白、指導室の様子を探ろうとしている。
車椅子が邪魔で扉に耳を当てれない。

仕方なく扉を薄く開く。

幸田の後姿ごしに、晴喜の顔。

晴喜、真白と目が合い、眉を吊り上げる。

晴喜 「俺がやったんだって」

幸田 「お前にあんなロケット作れるわけないだろ」

晴喜 「真白が作ったやつ貰ったんだよ。障がい者にはいらねえ
だろって。あんなんでも実験とか無理だもん」

真白、苦しそうに胸を押さえる。

幸田 「おい。言っていることと悪いことがあるだろ！」

幸田、机を叩く。

真白、扉をノック。

9. 学校・指導室（昼）

晴喜と真白が並んで座っている。

真白 「犯人は私です。車椅子なのに強行突破してすみません」

晴喜、ふてくされたように、

晴喜 「科学者って内申必要ないわけ？」

真白 「口挟まないで。無理だとか思ってるくせに」

幸田 「ここで喧嘩すんな。山本が犯人。でも盗んだのは藤原。
これで間違いないな？」

晴喜と真白、頷く。

幸田、長いため息。

幸田 「実験っていうのはな。迷惑かけると結果出しても印象が
悪くなるんだよ」

晴喜 「俺がテストで満点とってもいい顔されないと一緒だ」

真白 「ちよつと黙れる？」

幸田、苦笑い。

幸田 「藤原、そういうのは満点取ってから言え。で、だ。俺だ
って実験させてやりたいから言い訳を探してたんだよ」

真白 「そんなこと言っていないじゃないですか」

幸田 「不確かなことで希望持たせるのは違うだろ」

晴喜 「でも俺がやらかしたってことにすればさ」

幸田、視線を逸らして、

幸田 「失敗例をあげて、安全な実験を山本に実践してもらう方法もあるな」

真白、晴喜を見る。

晴喜、かっこつけて、

晴喜 「ちよ、見んなよ」

真白、晴喜を殴る。

幸田 「だから喧嘩すんなって。藤原が言い出したんだことだぞ」

晴喜 「んだよ。バラすなよ。台無しじゃんなあ？」

晴喜、真白に笑いかける。

真白、うつむき加減で、

真白 「ふたりとも足が悪いからって言うくせに」

晴喜と幸田、しばし沈黙。

目配せし合い、呆れたように、

晴喜 「手伝いは必要だろ」

幸田 「環境も整えなきゃだしな」

真白、小声で、

真白 「そんなに現実突きつけないでよ」

晴喜、吹き出す。

晴喜 「ちゃんと言わねえとお前止まらねえじゃん。犬でも待てるっつーの」

真白、晴喜を殴る。

幸田、仕方ないなというような表情。

幸田 「次はガラスのない場所だな」

10. 学校・屋上（昼）

空高く飛んでいくペットボトルロケット。

放射線を描いて屋上に落ちる。

晴喜、ロケットを拾う。

向かう先は机の上に設置した発射台。

真白、ロケットを受け取り、装填。

点火。

ふたりは空を仰ぐ。

ロケットは飛行機雲の軌跡をなぞるように飛ぶ。

おわり